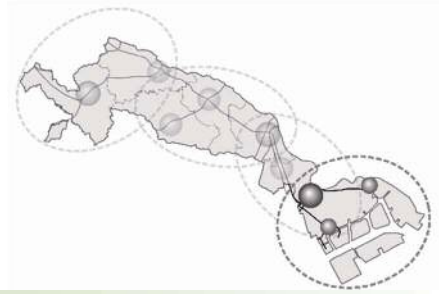


II 川崎駅・臨海部周辺エリア

川崎駅を中心に広がる、J R南武支線及び京急大師線沿線と臨海部を有する概ね川崎区を含む範囲



1 川崎駅・臨海部周辺エリアの特徴

(1) 市民の行動

- ・エリア内における市民の買い回り品の購入や娯楽・レジャー等を目的とした行動は、川崎駅周辺が多く利用されており、市民の行動圏は、エリア内の移動が多い傾向となっています。
- ・通勤においては、都心方面や横浜方面へと市民の行動圏が広がっていますが、川崎駅周辺や臨海部に向かうエリア内の移動が多い傾向となっています。
- ・就業地としての臨海部を有し、近隣都市や他のエリアからも臨海部に向かう移動が多くみられます。

(2) エリア内の交通特性と拠点地区

①交通特性

ア 鉄道ネットワーク

- ・川崎駅周辺と臨海部を結ぶ鉄道路線として、J R南武支線（尻手駅から浜川崎駅）と京急大師線（京急川崎駅から小島新田駅）があります。

イ バス等の交通ネットワーク

- ・京急大師線とJ R南武支線に挟まれた地域を中心に、川崎駅から臨海部の工業地域に接続する放射状の路線バスネットワークが形成されています。
- ・川崎駅から臨海部までの移動には、乗換えが必要なことや鉄道の運行本数等の状況から、路線バスの利用が多くみられます。
- ・臨海部は、製造・研究・物流等の多様な企業や施設が数多く立地しているため、川崎駅からのバス利用は、特に通勤時間帯に集中しています。

②拠点地区

ア 広域拠点：川崎駅周辺地区

- ・J R川崎駅西口を中心とした老朽住宅団地や大規模な工場跡地等の土地利用転換による、中枢業務機能を有する都市機能や広域的な商業施設の集積が進められるなど、広域的な集客機能の強化が進められています。

イ 臨空・臨海都市拠点：殿町・大師河原地域、浜川崎駅周辺地域

- ・殿町・大師河原地域では、キングスカイフロントを中心として、ライフサイエンス・環境分野の研究機関等の集積が進められています。
- ・浜川崎駅周辺地域では、大規模な工場跡地等の土地利用転換により、商業、都市型住宅等の都市機能の集積が進められ、更に広域的な視点から求められる機能の導入や土地利用転換の動向を視野に入れながら、活力ある拠点形成に向けたまちづくりが進められています。

(3) 京急大師線・JR南武支線等

① 鉄道沿線の主な拠点地区

- ・京急大師線によって、広域拠点である川崎駅周辺地区と臨空・臨海都市拠点である殿町・大師河原地域とがつながっています。また、JR南武支線には、臨空・臨海都市拠点である浜川崎駅周辺地域が位置しています。

② 鉄道沿線の人口動態

- ・川崎駅を中心とした地域、京急大師線沿線の周辺地域、小田栄地区等において人口が増加しており、特に京急大師線沿線では、今後も人口増加が見込まれています。
- ・一方で、既に人口減少や高齢化が進展している地区もみられます。

③ 鉄道沿線の動向

- ・京急大師線は、連続立体交差事業による、安全性の向上や道路交通の円滑化に向けた取組を進めています。また、鉄道沿線での工場跡地等から都市型住宅への土地利用転換により、駅利用者が増加しています。
- ・JR東日本と、川崎市で包括連携協定を結んでおり、JR南武支線においては、小田栄駅の新設に伴う列車の増発や駅周辺の整備が図られるなど、鉄道沿線の利便性・快適性の向上やイメージアップに向けた取組を進めています。
- ・臨海部の交通ネットワークの充実に向け、東海道貨物支線貨客併用化や川崎アプローチ線の新設等の検討を進めています。

(4) 土地利用

- ・臨海部の埋立地を中心に、工場等の工業系土地利用が多くを占め、産業が集積しています。埋立地以外の市街地では住宅系土地利用や商業系土地利用が多く、住宅地の多くでは、戦災復興土地区画整理事業が行われ、道路等が整備されていますが、JR南武支線沿線等の一部の地域では、戦前に形成された市街地が残っている地域もあります。
- ・京急大師線沿線は、東海道の宿場町として発展してきた川崎宿や川崎大師の門前町として発展してきた大師地区等の歴史的な資源を有しています。
- ・自然的土地利用の割合が他のエリアに比べ、低い傾向にありますが、東京湾や多摩川の大規模な水辺空間や大規模公園である富士見公園等の資源を有しています。
- ・居住地には、都心方面の就業者と臨海部を主としたエリア内の就業者が居住する特徴があります。
- ・平坦地が広がっているため、駅へのアクセスは、自転車も多い傾向となっています。

2 川崎駅・臨海部周辺エリアの課題

① 拠点等の整備とその効果の効果的・効率的な波及

- ・本エリアの拠点地区である川崎駅周辺地区、殿町・大師河原地域及び浜川崎駅周辺地域による都市機能の集積効果や整備効果を高めるとともに、その効果を効果的・効率的にエリア全体に波及させていくため、拠点整備と連携した鉄道沿線の取組が必要となります。

② 交通環境の利便性の維持・活用

- ・エリア内には、市民生活や企業活動を支える川崎駅を中心とした鉄道、路線バス等の公共交通ネットワークが形成されています。これらの交通環境を活かし、サービスの向上等による公共交通の利用促進を図るとともに、こうした交通環境をまちづくりに活かしていくことが必要となります。

③地域資源の活用

- ・臨海部における羽田空港との近接性や川崎港、産業集積、物流拠点機能を活かしたまちづくりを進めていくことが必要となります。
- ・地域資源の活用による多様な交流の創出を図るため、東京湾や多摩川等の自然的資源、東海道の街なみ、川崎大師等の歴史的な資源及び企業の情報発信施設等を、本エリアの特徴的な地域資源として、まちづくりに活かしていくことが必要となります。

④市街地環境の改善

- ・戦前に形成された市街地では、狭あい道路や木造住宅が多く、特にJR南武支線沿線は密集市街地が市域で最も集中していることから、市街地環境の改善が必要となります。

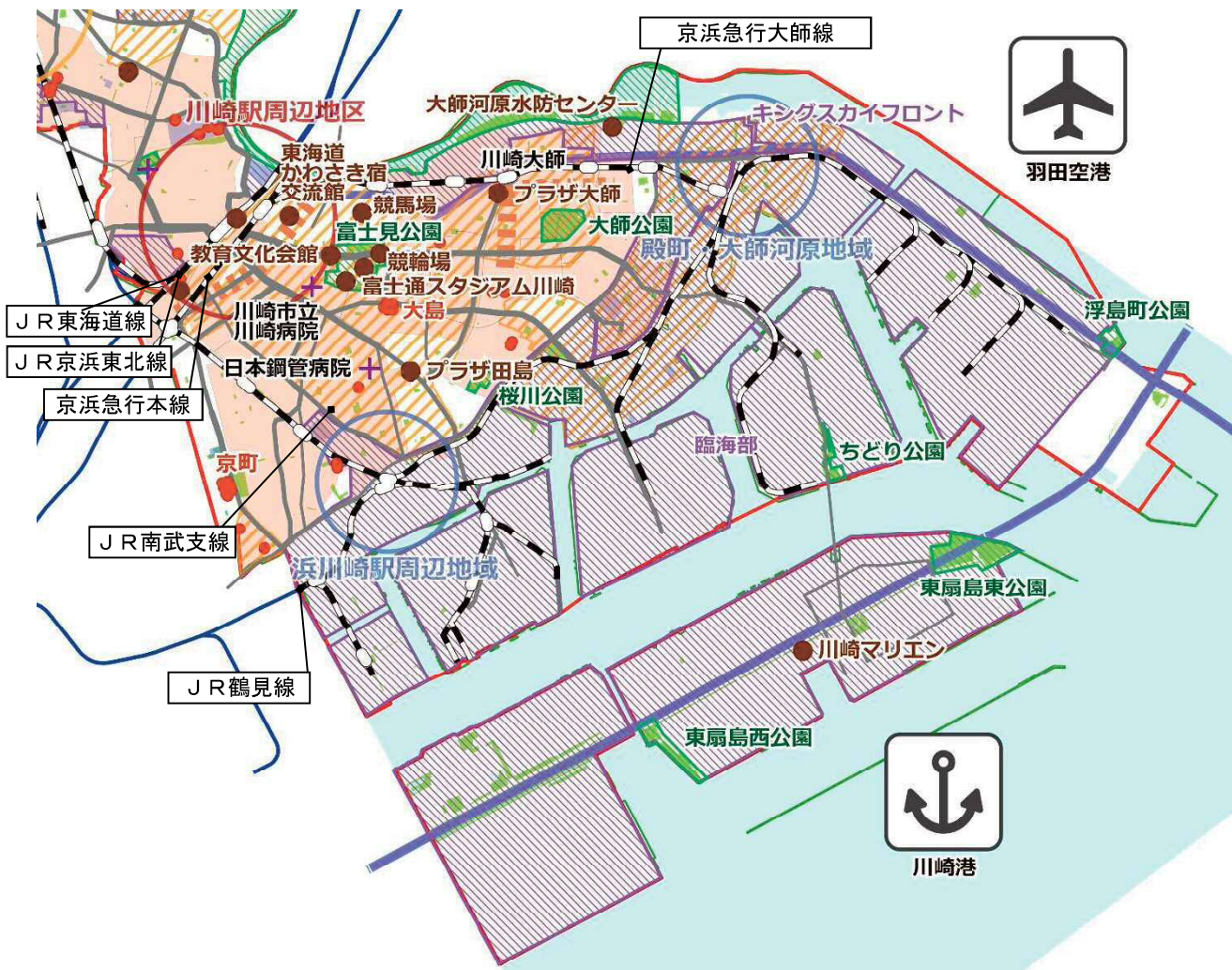
⑤臨海部の持続的発展

- ・臨海部においては、引き続き、我が国を代表する産業拠点の形成に向け、羽田空港や川崎港等、陸海空の交通結節機能等を活かし、既存産業の高度化・高付加価値化や、研究開発機能、環境・ライフサイエンス分野等の先端産業の集積・創出、豊富な倉庫群を活かした総合的な物流拠点の形成などによる持続的な発展が必要となります。また、臨海部の持続的発展に向け、産業活動や就業者の通勤等を支える公共交通の機能強化が必要となります。

3 川崎駅・臨海部周辺エリアの都市構造

1 鉄道		京浜急行大師線、JR南武支線、JR東海道線、JR京浜東北線、京浜急行本線、JR鶴見線、東海道貨物支線（新規ネットワーク）
2 地域生活ゾーンの形成		概ね川崎区
3 拠点地区	①広域拠点	川崎駅周辺地区
	②臨空・臨海都市拠点	殿町・大師河原地域、浜川崎駅周辺地域
4 主な施設等	①身近な駅（拠点地区以外）	京浜急行大師線：港町駅、鈴木町駅、川崎大師駅、東門前駅、産業道路駅、小島新田駅 JR南武支線：尻手駅、八丁畷駅、川崎新町駅、小田栄駅
	②病院（一般病床300床以上）	川崎市立川崎病院、日本鋼管病院
	③産業・研究開発	臨海部、キングスカイフロント
	④歴史的資源	川崎大師、東海道
	⑤公園緑地（市民健康の森含む）	多摩川緑地、富士見公園、大師公園、桜川公園、東扇島西公園、東扇島東公園、浮島町公園、ちどり公園
	⑥その他	市営住宅：川崎区 12か所（京町、大島 等）、教育文化会館、プラザ大師、プラザ田島、競馬場、競輪場、富士通スタジアム川崎、東海道かわさき宿交流館、大師河原水防センター、かわさきマリエン

【川崎駅・臨海部周辺エリアの地域特性】



凡例

- | | |
|------------------|--|
| 鉄道 | 土地区画整理事業 |
| 広域幹線道路 | 耕地整理 |
| 路線バス（100本以上/日） | その他、宅地開発
※5ha以上の開発許可等。
一部工業跡地利用(2ha以上)含む |
| 主な病院（一般病床300床以上） | 市域・行政区 |
| 主な産業・研究開発 | H22土地利用 |
| 主な公園・緑地 | 農地 |
| 市営住宅 | 山林 |
| 文化施設等 | 河川・水路・水面 |
| 商店街・街道 | 公園・広場・緑地等 |

第1部 改定の趣旨等

第2部 まちの現状・課題

第3部 都市づくりの基本理念

第4部 分野別の基本方針

第5部 生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部 計画の実現・推進方針

4 川崎駅・臨海部周辺エリアのまちづくりの考え方

(1) 広域拠点（川崎駅周辺地区）

- ・都心から放射状に伸びる主要な鉄道路線が複数乗り入れる本市の中心的なターミナル駅としての特性を活かすとともに、近隣都市拠点（品川・横浜等）の都市機能を意識しながら、中枢業務機能や広域的な商業、文化・交流、行政等の高次な都市機能の集積や良質な都市型住宅を誘導し、羽田空港に隣接する本市の玄関口にふさわしい市内外から人を呼びこむことができる活力と魅力にあふれた広域拠点の形成をめざします。

(2) 臨空・臨海都市拠点（殿町・大師河原地域、浜川崎駅周辺地域）

- ・殿町・大師河原地域は、羽田空港との近接性を活かし、都市計画道路殿町羽田空港線の整備等による羽田空港との連携強化に取り組むとともに、高度な研究開発機能や企業の集積を図り、臨海部の持続的発展を先導する活力ある拠点の形成をめざします。
- ・浜川崎駅周辺地域は、広域的な視点から求められる機能導入や土地利用転換の動向を視野に入れながら、活力ある拠点の形成をめざします。

(3) 身近な駅周辺／鉄道沿線

- ・鉄道沿線の拠点地区と連携することで機能の分担を図り、地域住民の暮らしを支える身近な商業や生活支援関連サービス機能の集積をめざします。
- ・歴史的な資源である東海道、川崎大師及び企業の情報発信施設等を活かした街なみづくりや建物の更新、リニューアル等により地域交流の場の形成を促進するなど、既存ストックを活かしたまちづくりの推進をめざします。
- ・老朽建築物の更新等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図るとともに、鉄道駅周辺における高い利便性を活かし、多様な世代が居住できる環境整備の促進をめざします。
- ・駅の機能更新等により、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- ・鉄道の利便性や快適性の向上を促進します。

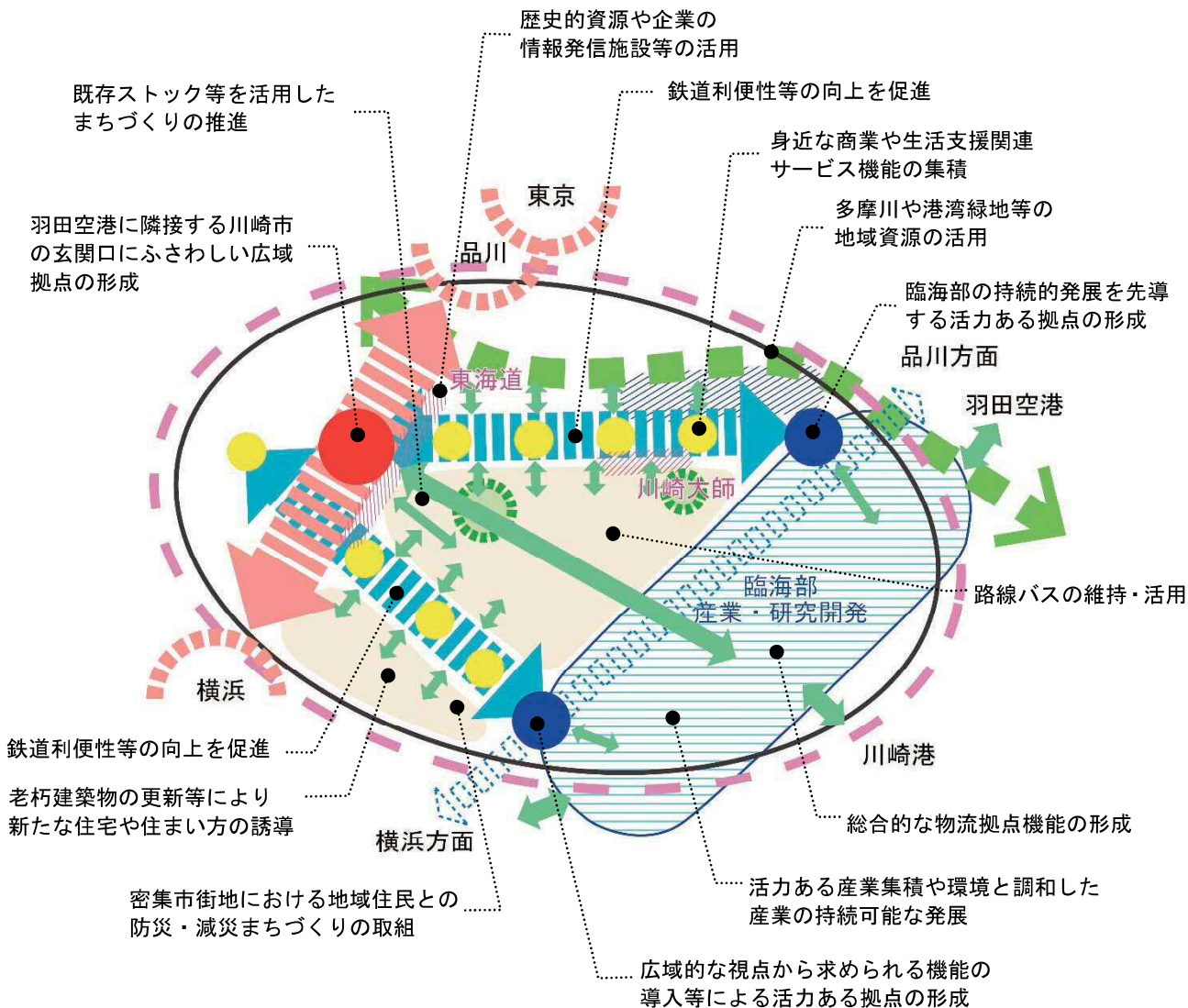
(4) 臨海部

- ・本市経済を牽引し、就業地でもある臨海部では、付加価値の高い、活力ある産業集積の促進などにより、国際的な課題解決に貢献する、環境と調和した産業の持続可能な発展をめざすとともに、人材育成や多様な就業が可能な社会の実現をめざします。
- ・陸海空の結節点として、総合的な物流拠点機能の形成により、川崎港が首都圏の産業の競争力を高めるとともに、本市の産業活動を支え、地域経済や市民生活の安定・向上に貢献することをめざします。
- ・川崎駅周辺地区と臨海部を結ぶ路線バスや鉄道などの既存ストックを活かした公共交通の機能強化を図り、近隣都市や他のエリアからも人が集まる広域的な就業地を支え、持続的な発展に寄与する利便性の高い公共交通網の整備をめざします。

(5) エリア全般

- ・本エリアにおける地域特性や交通環境を考慮し、サービスの向上による公共交通の利用促進を図り、駅や駅周辺へのアクセスの向上をめざします。
- ・多摩川や港湾緑地等の地域資源を活かし、アクセスの向上や魅力の発信を通じ、広域的な交流の場の形成をめざします。
- ・路線バスを維持・活用し、誰もが快適に移動できるまちづくりをめざします。
- ・老朽建築物の更新等により、新たな住宅や住まい方の誘導を図ります。
- ・密集市街地における地域住民との防災・減災まちづくりの取組を進めます。
- ・臨海部の就業者などの居住を支える住環境の向上を図ります。

川崎駅・臨海部周辺エリアのまちづくり概念イメージ図



凡例

	広域拠点		都市軸（放射方向）		生活行動圏		主な公園・緑地
	臨空・臨海都市拠点		都市軸		地域生活ゾーン		主な産業・研究開発
	身近な駅周辺		都市軸（新規ネットワーク）		多摩川		平たん部居住地
			駅や臨海部へのアクセスの向上				

第1部 改定の趣旨等

第2部 まちの現状・課題

第3部 都市づくりの基本理念

第4部 分野別の基本方針

第5部 生活行動圏別の沿線まちづくりの考え方

第6部 計画の実現・推進方針